

## 平賀讓日記 — 昭和十三年十二月〜昭和十四年十二月 —

中野 実

## 一 はじめに

ここに紹介するのは、東京帝国大学元総長平賀讓（一八七八年三月八日〜一九四三年二月二日）の日記のうち、主に昭和一四年分の日記である。本日記の始めには総長就任の経緯を記した前年一月一八日からの記事があり、それらを含めて復刻した。

## 二 平賀史料の概要

元総長平賀讓の史料は、そのほとんどが東京大学史料室に寄託され、現在整理中である（一九八九年一月現在）。同史料の発掘経緯および利用状況などについては、内藤初穂氏の左の著作を参考にさせていただきたい。

『平賀讓遺稿集』（編）、昭和六〇年七月、出版協同社

「平賀讓伝について」『学士会会報』、昭和六一年四月  
『軍艦総長平賀讓』一九八七年一月、文芸春秋

これ以前、史料室（当時、百年史編集室）でも歴代総長の史料調査の一環として、一九七六年（昭和五二）平賀史料の調査を行っていた。その概要は『平賀讓史料目録』——東京大学史料目録九——に詳しい。平賀史料は、この後大きな動きがあり、その点については前記の内藤氏の論稿に譲るが、同氏の平賀家ご遺族と史料室との仲介などのご努力により、史料は一括して寄託されることになった。平賀史料は履歴関係（辞令を含む）、修学時代の史料、書簡、日記、新聞記事スクラップ、写真帳、艦船設計図などから成っている。量的には最後の艦船関係の史料が圧倒的に多く、現在それらの整理に主に取りかかっている。修学時代のものとしては、帝大卒業迄のノートや講義筆記帳、英国留学時代の成績表、デッサン（その一部は「東京大学史料室ニュース」第三号の口絵で紹介されている。）などもある。書簡は葉書が多く、約七割を占めている。その一部は史料目

録に復刻され、今回も一部復刻しておいた。新聞記事スクラップは総長就任時期に集中している。これらの史料はいずれ東京大学史史料目録としてまとめられる予定である。

### 三 日記について

平賀日記は全部で二七冊である。時期は明治二五年から始まり最後は昭和一五年である。すなわち断続的に残されている。史料室に寄託された日記はそのうちの二〇冊である。このほかの日記は横浜国立大学に保存されている。

日記の形態は、いわゆる懐中日記で小型のものである。横書き、鉛筆、ペン書きが多く、記載はごく簡単で、スケジュール的な事項が圧倒的である。

今回復刻した昭和一四年の日記 (POCKET DIARY FOR 1939, サイズは一三・五×六・五センチ) は、総長就任の最初の年にあたり、東京大学史の上では、「平賀肅学」、臨時医学専門部の設置、工学部附属総合試験所の新設、軍事教練の必修料などが主要な事項としてあげられる年であった。なにかんずく、「平賀肅学」とそれに伴う経済学部再建問題が大きな社会的関心を呼んだ。

### 四 復刻にあたって

今回復刻にあたっては、日記の記載が極めて簡便なものであることを考え、本文に適宜編者の注を挿入するとともに、末尾に補注を付した。補注は、総長の動静を中心にし、その他の事項は筆者の現在の力量から最小限に止どめざるを得なかった。かつ、平賀の総長就任経緯、「平賀肅学」および経済学部再建問題などについては、最近の研究文献では前掲の内藤氏の『軍艦総長平賀謙』、『東京大学百年史 通史二』および林健太郎『今井登志喜』（諏訪史談会、昭和五年一二月）などに詳述されており、そちらを参照していただくことにして、補注ではごく簡単に済ませたことを、あらかじめお断りをしておく。

最後に、本日記の復刻にあたってご快諾をいただいた平賀家ご遺族に感謝するとともに、復刻に際して多大なるご教示をいただいた内藤氏および援助をいただいた野間教育研究所清水康幸氏、立教大学大学院学生佐々木尚毅氏、東京大学大学院学生駒込武氏にそれぞれ感謝します。

平賀讓日記 — 昭和十三年十二月—昭和十四年十二月—

凡例

- 一、復刻に当たって、漢字は原意をそこなわないかぎり現在一般に使われている簡略体を用いた。また、文中の「崎」の表記が山崎と離れていたが、崎に統一した。
- 二、明白な誤字、脱字、宛字などは脇に「」で示した。
- 三、本文中判読不能、欠けている箇所は□で示した。
- 四、「」（亀甲括弧）は編者注である。
- 五、本文は横書きである。本紀要の体裁に倣い、縦組みに直したため、数字など読みづらい表記になったことをお詫びする。

昭和十三年

十二月十八日（日）

正午佐藤（寛次総長）事ム扱ニ内諾ヲ伝フ

十二月十九日（月）

朝同氏荒木（貞夫文部）大臣ニ推薦ス

夜電話アリ明朝大臣私邸ヘトノ事

十二月二十日（火）

朝8—30訪問、大学ハ任セル故宜クトノ事

今朝ノ閣議ニテ通過、内閣ヨリ発表

- 2 1/2 p.m. — 3.00ノ間ニ佐藤氏ヨリ発布ノ電話アリ
4. 10 p.m. 新聞記者十数名ニ会見ス

十二月二十一日（水）

9. 30 登学、佐藤氏ヨリ事ムヲ引継ク
  10. 00 部課長へ新任アイサツ
  10. 30 本部職員へ挨拶
  11. 30 文相ヨリ官紀受
- 政務次官、次官、参与官、教〔学局〕長官、専門局長ニアイ

サツ

文部食堂ニテ食事

午后宮家へ御アイサツ

正午学ム課長ヨリ御講書始控へノ交渉アリ

十二月二十二日（木）<sup>1</sup>

1. 0 全学教授へ新任挨拶
- 右終リテ学部長ト懇談

十二月二十三日（金）<sup>2</sup>

山田〔文雄経済学部〕教授来訪

十二月二十四日（土）

那須〔皓農学部教授〕

十二月二十五日(日)

那須

十二月二十六日(月)

海軍大臣〔米内光政〕(次官〔山本五十六〕)、艦〔政〕本部長〔上

田宗重〕、四課〔部?〕長〔桑原重治〕へ挨拶

三菱へ

十二月二十七日(火)

本井田〔祥男経済学部〕教授

十二月二十八日(水)

山田教授(大学)、田中〔耕太郎〕法〔教授〕、舞出〔長五郎〕経〔教授〕

十二月二十九日(木)

河合〔栄治郎〕教授来訪(自宅)

午后三菱へ(技術顧問辞退二決ス)

優秀船、艦艇ノ主要ナルコトハ三菱ヨリ聞キニ来ルコトヲ建前トス

昭和十四年

一月一日(日)

9.00 大学ニテ判任官ノ賀辞ヲ受ク(明年ハ9-15ニスベシ)

9.40 参内

大宮御所、秩父、三笠、久仁、高松宮家へ参賀

一月六日(金)

原友子披露(於、東京会馆)

一月七日(土)

夜、斯波〔孝四郎・三菱重工取締役会長〕氏ヨリ招待(於、新キラク)

舞出氏

一月九日(月)

舞出氏、田中氏

理学部長〔寺沢寛一〕

一月十日(火)

1.0 評議会

法経委員会

一月十一日(水)

法経部長、評議員会議

朝河合氏弁明

一月十二日(木)

〔帝国〕学士院〔例会〕

田中耕部長来訪(夜)

河合氏来訪(朝)

一月十三日(金)

科学振興会

午后学部長会議

朝河合氏来訪

田辺(忠男)氏(多分是ノ日ナラン)

一月十四日(土)

2. p.m. 総長懇談(文部大臣官邸)

dinner

舞出部長来訪(夜)

朝桑田(芳蔵)文学部長会談

一月十六日(月)

午前山田教授

午后 佐藤農学部長

軍教官二名

会談 石原(忍)部長(医)

寺沢(寛一理学)部長

一月十七日(火)

6. p.m. 七日会

赤間(信義)

午后部長会議

一月十八日(水)

(日本)学(術)振(興会)、□□□□(欠返)(12: 如水館)

那須(朝)

三菱へ(元良(信太郎・常務取締役)、玉井(喬介・長崎造船所長)、

佐藤(尚・造船設計部計画課長)

舞出、今井(登志喜)文(学部教授)

朝文相へ電話

夜文相私邸へ(9-10:10)

一月十九日(木)

[第七回]学振(學術部)委員総会(欠)、(9 1/2, 上野精養軒、昼食)

河合定二氏(予備役海軍造船官・明治三八年造船学科卒)来賀

那須、農学部長

一月二十日(金)

大臣へ電話(7:30)

清水、舞出、田中

8. 30 p.m. 大臣邸へ

会談(10-11時)

一月二十一日(土)

舞出、田中西学部長へ

赤間氏来学

一月二十二日(日)

楠瀬送別会 (noon)

平賀祝賀会

夜、石黒〔英彦〕次官来邸(9-10 p.m.)

岩佐〔五郎・文部省秘書課長〕氏、那須氏来訪

一月二十三日(月)

朝石黒次官へ電話

一月二十四日(火)

御講書始メ10:0(9-30参内)、フロックコート

舞出氏

教制委員会(小会)

寺沢氏

夜12:0 石黒氏来訪(大臣ヨリ総長ノ思フ様ニヤラレヨ)

一月二十五日(水)

5 1/2 水曜会宴会(総長)

一 講師大河内一男

河合氏ヨリノ懇請

助手木村健康

〃 安井琢磨

教授山田

朝土方(成美)氏(総長室)、本位田、田辺、中西(寅男)↓土方

夜河合氏(宅)最後

一月二十六日(木)

5・学士会館、(佐藤寛次)農学部長還暦祝賀会

7.30 a.m. 土方氏ヨリ電話

9.00〃 河合氏ヨリ〃(辞表ヲ出サズ)

10.30 土方氏(辞表ヲ出サズ)

本位田、田辺、中西↓土方

11.00 p.m.(土方ヨリ電話、辞表ヲ出サズ)

一月二十七日(金)

洋々会(在京予備役海軍将官の懇親会)ニテ祝盃(総長)

鈴木(貫太郎)大将、任命ナリト雖モ、全国学者ノ推センナリ

海軍ヨリ総理、閣僚ノ出タヨリモ比ベモノニナラナイ程喜バシイ、

大分拍手アリ

5.15-6.15 ステーションホテルニテ次官ト会見、書類ヲ手渡ス

田中、舞出来訪

一月二十八日(土)

田中、舞出

午後1-2.5 部長会議(報告)

夕刊ニテ各紙発表ス

夜電話、明朝大臣邸へト招カル

一月二十九日(日)

8-50 to 2-50 大臣私邸(大臣、次官、菅原〔裕・大臣官房秘書官〕氏)

山田氏来訪(不在)

本位田氏等来訪(不在) 辞表ヲ置イテユク、7. p.m.

一月三十日(月)

造船協合理事会、5-30

1 1 2 p.m. 科振第四回(文第二会議室)

朝那須(同氏ハ次官ニ遇フ)

午后

一月三十一日(火)

朝那須

12-1.30 次官訪問(秘書官邸)、先方ヨリノ招キニ依ル

舞出、上野(道輔)

佐藤

河合教授分限委員会可決、3.00頃発令

二月一日(水)

桜井(錠二)博士葬儀

末広(嚴太郎)教授

田中、舞出

舞出

夜大臣ヨリ電話(上申書拝借ノ件)

(那須、次官ト会見、1-15分)

夕、那須来宅

二月二日(木)

6. p.m. 造船クラブ(大國)

二月五日(日)

夜7-10、大臣邸

二月六日(月)

賀屋(興宣)(財政)……

永田清(財政)……慶応

中山伊智郎(経済原論)——(商大)

佐藤氏ヨリ 森田優三(統計学) 横浜高商

大河内(社会政策)

深井(琢磨)

大塚久雄(本位田)……法政

山田三郎氏訪問

二月七日(火)

田中、寺沢、

夕、小山武氏ヲ訪問

二月八日(水)

6. p.m. 治作

二月十日(金)

工学部会 1 1/2、東大工学部会議室

有終会 1 1/2、水交社、講師会

山田三郎氏(山崎(覺次郎)氏ノ件)

岡橋林氏

佐藤農部長、桑田部長

舞出

8日ノ事

二月十三日(月)

帝国学士院(昭和十四年度学士院賞受賞者決定)

8. 00 p.m. 文相訪問、不在

12. p.m. 前文相ヨリ(文限委員会ハ文部大臣、総長ヲ絶対信頼シテ土

方休職ヲ満場一致可決)ノ旨妻へ電話

2. 50 秘書課長ヨリ休職発令ノ旨電話

二月十四日(火)

8. 50-9. 10 文相会談

10. 30-12. 00 山崎氏(桑田氏)会談

1. 15-4. 00 評議会(報告)

今回ノ措置ハ異例中ノ異例ニシテ総長ノ措置ニ御同意(神川[彦松]

ヲ除キ二十名)

再建ノ措置ハ適宜総長善処ス

5. 00 記者団ニ総長談

二月十五日(水)

総公部会(学[術]研[究会議]) 5. p.m.

二月十七日(金)

夜、7-9 大臣官邸(大臣、次官)

山崎氏学部長事務取扱決定

二月十九日(日)

1、1/2、2、1/2 柳川(昇)、渡辺(信一)、油本(豊吉)、橋爪(明

男)ニ遇フ(橋爪態度可ナリ)

4 1/2 p.m. 山崎邸訪問、顧問タランコトヲ乞フ、快諾ス

二月二十日(月)

柳川、渡辺、油本、橋爪ニ面談



橋爪ニ辞表ヲ返却ス  
他ノ三氏ヲ慰留スルトノ事

二月二十一日(火)

午前中西、田辺、本位田、山田ニ会见ス、本位田以外辞表決定ス  
4.00 学部長会議

夜、7-7.30 大臣官邸ニ大臣ニ会ヒ万時決定ス  
夜、江口(重国)氏来宅、四助教授全部留任スルトノ事

二月二十二日(水)

四助教授ニ会见ス、何レモ辞表ヲ撤回ス  
本位田来リ、辞ストノ事、決定

二月二十三日(木)

徳川(武定・造船少将、海軍技術研究所造船研究部長)家(午前)  
木村、安井、大河内ニ会见ス(木村、安井、大河内決セス)  
カイ徳館ニテ茶会

夕刻上申ス(本位田、田辺、中西、山田四教授)依願免官  
〔長男〕謙一(一子)、原正〔幹・明治三四年造船学科卒、平賀と同  
級生〕邸ニテ美吉輝子(母親)ト会见ス

二月二十四日(金)

大河内、安井辞表撤回

山崎氏初登学

造船協会役員会

中村(幸之助)工業大学、六工学部長、内田(祥三)、瀬藤(象二)  
江口ニ昼餐

二月二十五日(土)

第一回経済学部教授懇談会(山崎氏出席)  
本位田、田辺、中西、山田依願免官発表  
木村助手、長尾〔永雄策郎〕講師解囑

二月二十六日(日)

夜、6 p.m.(キキヤウ)会合

二月二十七日(月)

2. p.m. 山崎教授来学  
0 1/2 青山斎場(赤池氏〔濃〕、貴族院議員元警視總監の妻五百枝  
の葬儀)

二月二十八日(火)

0.30 学振〔第六二回〕理事会(休)……欠  
1.00-2.00 評議会(辞表組所理、評議経済学部事ム取扱山崎氏ノ件  
報告)

三月一日(水)

海軍艦政本部長、福田氏訪問

優秀船ハ bossing ニテ定ムベキ説ヲ述ブ

三月二日(木)

通信省(造船、管船局長、次官)

郵船(鈴木氏)

三菱(斯波、元良)

ハ訪問

三月三日(金)

文部次官訪問(大臣、政務次官ハ名刺)

三菱船船課(小川氏) 10-11

三月五日(日)

実吉夫人、輝子氏、原菊姉来宅(3-5. 30)

三月六日(月)

7. p.m. 文部省第三会議室、学振(文) Ⅲ総会(6 1/2 p.m. 弁当)、5

10 (特別委員会)

長与(又郎)先生訪問ス(10-11)

三月七日(火)

6. p.m. ウサミ(亭) 七代会

部長会議(1-5. p.m.)

三月八日(水)

6. p.m. 上の精養軒、陸軍西尾(寿造教育) 総監

4. p.m. 水交社、近藤基樹(海軍造船中將・男爵、明治十七年工部大

学校造船学科卒) 十年祭

吉田安次男葬儀ハ

三菱(10-10 to 11:0) (小川)

郵船(2-2. 40) (浅井、小川、工ム課長)

優秀船 shaft・B. ノ件

謙一実吉家ヲ訪問ス

三月九日(木)

造船協会評議員会ハ

山崎先生来室

那須氏

会計課長ニ浅野地所ノ事ヲ話ス

植村氏来訪(総長室)

三月十三日(月)

帝国学士院(例会)

1. p.m. 学部長

三月十四日(火)  
舞出氏

三月十五日(水)

山崎氏

三月十六日(木)

Shakespear〔牌授賞〕式 3 p.m. (Sir Robert Craige) to 4 1/2 p.m.  
10 a.m. 部長会議

医学部長新問題ヲ起ス

坂口〔康蔵〕氏来ル

那須氏来ル

三月十七日(金)

造船協会 Pocket会 (5 1/2 p.m.)  
8 - 10 to 9 - 10 A.M. 山川氏来宅

坂口氏

和田〔小六航空研究〕所長

東島〔精一〕氏

文学部長

三月十八日(土)

学生会ヨリ招待

桜井博士五〇日祭(水交社) …… 欠

(社会教育局柴沼〔直〕課長) 有光〔次郎〕、岩松〔五良〕  
普通学ム局、伊藤日出登

三月十九日(日)

東亜文化協議会<sup>10)</sup>

4 p.m. 工業クラブ Lunch

輝子嬢来ル

三月二十日(月)

1 1/2 p.m. 学研総ム部会<sup>2)</sup>

午后工学部発表

山崎氏(人事)

三月二十一日(火)

Holiday

三月二十二日(水)

4 1/2 p.m. 国防科学(借行社〔日本陸軍将校の親睦共済団体〕)

10. 0 経済学部教授会

成績発表、夕方

11. 0 山崎氏、経済学部教授会(人事)

堀氏来訪

石原〔忍〕、坂口、東〔竜太郎〕、宮川〔米次〕氏来室〔医専ノ件〕<sup>①</sup>

三月二十三日〔木〕

堀氏訪問

山崎氏

森氏

次官ヨリ電話〔会計課長、本省へ医専ノ件〕

赤間氏来訪

三月二十四日〔金〕

読売13 | 3 | 18

丁友会〔東大工学部学友会〕13 | 7

山崎、経済教授会〔人事決定〕

長谷田〔泰三〕氏来訪

穂積〔重遠〕氏 ”〔蠟山〔政道〕氏辞表〕

舞出氏、山崎氏

次官来訪〔医専ノ件〕

石原、宮川氏

水交社披露百五十人位

三月二十五日〔土〕

9.00 大臣ヲ訪問〔30分〕

三月二十八日〔火〕

経済教授会〔採点〕10. a.m.

評議会

大学制度〔審査〕委員会<sup>②</sup>

三月二十九日〔水〕

夕、秘書課長へ電話

三月三十日〔木〕

1 1/2 p.m. 華族会館、学振〔第六三回〕理事会、〔同第七回〕評議員

会、1 1/2 p.m. V小委員会

5. p.m. 目黒雅叙園

石川トキ治氏来訪

1 | 2. 5 学部長会議〔軍教ノ件〕

三月三十一日〔金〕

卒業式〔10.30 | 10.55〕総長告辞

証書授与〔経済学部〕11.30 | 12.15

石原、院長来ル

四月一日〔土〕

造船協会見学〔dinner〕

10.30 宮繕課長内田〔祥三?〕氏

田中耕氏

四月二日(日)

講演(蚕糸会館) 10 a.m.

四月三日(月)

6 p.m. 錦水(石川、谷村、桑原)

四月四日(火)

1 1/2 p.m. 南原(繁)教授<sup>(13)</sup>

四月六日(木)

10 a.m. 逋信省第一会議室(標準船)

12 1 30 松本氏出発

速水(滉)京城(帝大)総長

山崎教授

四月七日(金)

泉病院記念会(2 p.m.)

四月八日(土)

10 a.m. 経済学部新入生二訓辞

四月十日(月)

6 p.m. 紅葉館、東亜協議会晚餐

四月十二日(水)

学士院

四月十三日(木)

3 p.m. 長与先生還曆会(学士会)

東亜文化協議会理事会、10 a.m. 安田講堂

6 p.m. 同上(星ヶ岡)

四月十四日(金)

6 p.m. 築地錦水(長与先生ヨリ)

四月十五日(土)

9 30 11 00 次官↓大臣

専門部ノ件等

岩松秘書課長(矢部(貞治)氏等ノ件)<sup>(14)</sup>

四月十七日(月)

永村君披露

四月十八日(火)

4 1/2 p.m. 日本工業クラブ (海防義会評議員会)

四月十九日 (水)

0 1/2、文部第四会議室、学振 (第六四回) 理事会

3 p.m. 山上海館経友会 (東大経済学部学友会)

4 1/2 p.m. 借行社 (国防科学)

四月二十日 (木)

工学部長、2 p.m. 学士院

造船協会 pocket book

四月二十一日 (金)

1 1/2 p.m. 総△部会 (学研)、学士院

四月二十二日 (土)

学研総会、10 a.m. 学士院

四月二十四日 (月)

二八会 (錦水)

午后一時学部長会議

2 1 3、谷家告別式

四月二十五日 (火)

10:00 靖国神社参拜

招待状 (May, 10h) 発送

四月二十六日 (水)

造船協会理事会、5 1/2 p.m.

1 p.m. 経済学部教授会

医学部長、本省会議 (専門部)

See J of Commerce Feb. 2 (昨年の商船)

四月二十七日 (木)

3 1/2、洋々会

四月二十九日 (土)

4 p.m. 上野精養軒

天長節

五月一日 (月)

4 p.m. 懷徳館

3 p.m. 経済学部懇談会

五月二日 (火)

造船 pocket book 会、5 1/2 p.m.

五月三日(水)

正午東京会館(通信関係) 大臣祝賀会

1 1/2 p.m. 教授懇談会

五月四日(木)

6 p.m. 錦水(山川氏招待)

五月六日(土)

1 p.m. 連合会

夕刻、田中、吾妻〔栄〕、舞出、上の、東畑、那須、平賀

五月十一日(木)

学士院受賞式

五月十二日(金)

1 p.m. 東洋文化研究所ノ件会議<sup>(15)</sup>

五月十三日(土)

学士院賜餐

五月十四日(日)

如蘭会

五月十五日(月)

日下財団昼飯、第一銀行(明石照男)、11 1/2 a.m. (欠)

大臣視察(9-6.0)<sup>(16)</sup>

病院、医、理、地震、工、学生へ講演(1-2)

五月十六日(火)

艦本四部、三菱

(優秀船 shaft bracket 完)

五月十七日(水)

経済学会評議会(5 1/2 p.m.)、山上会館

大臣視察(9-5.15)

農、水漕、法、経、カイ徳館、図書館、新聞、史料、剣、弓、食堂

五月十八日(木)

謙一、てる子ノ婚姻届提出ス(完了)

三菱(小川氏ト会见)

五月十九日(金)

3 p.m. 教練会議

渋谷区役所へ謙一、輝子ノ寄留届ヲ出ス(原宿2ノ170ノ10)

五月二十日(土)

大臣、航研、伝研、視察、後自分等植物園へ

五月二十一日(日)

軍教予行 2-4

五月二十二日(月)

御親閲 10-11

岩垂奨学団(紅葉館)

6 1/2 p.m. 紅葉館

五月二十三日(火)

造船協合理事会、5 1/2 p.m.

文部省ニテ(青少年ニ賜ハリタル)勅語奉載式

水交社ニテ二、一三〇円九八ヲ支払ス

五月二十四日(水)

学振(第六五回)理事会

医学部教授会室(共済会委員会)、3-20

五月二十五日(木)

高等学校長会議会食<sup>17)</sup>

五月二十六日(金)

賀屋氏、3-5 p.m. (No. 35)

造船 pocket book 委員会

五月二十八日(日)

ききやう、6 1/2 p.m.

六月二日(金)

賀屋氏

10 a.m. 宮川氏来ル

六月五日(月)

総長祝賀式(6 p.m. 学士会)、出席者112人<sup>18)</sup>

六月六日(火)

故阿部(重孝)教授宅訪弔

山崎教授来訪

六月七日(水)

七日会出席

12 1/2 阿部教授葬儀

1 1/2-4、文部省教育審議会(文学部長同行)<sup>19)</sup>

六月八日(木)



4. p.m. 真鍋(嘉一郎、医学部)教授祝賀会、理、文、農学部長来ル  
那須市今夜出発

六月九日(金)

加屋氏、賀屋氏等講師歓迎会

3. p.m. 部長会議

正午、小林(躋造)総督卜会合(東京会館肴料理ブルニエ)

六月十日(土)

11. 水交社(有終会理事会)

六月十二日(月)

学士院例会

1. 0 経済学部教授会

六月十四日(水)

2. p.m. 経済学部教授会

六月十五日(木)

賀屋氏

10 1/2 有終会

六月十六日(金)

暖房委員会 1. p.m.

教育(審議会)総会 3. p.m.

六月十七日(土)

2. p.m. 藤原工大開学式

六月十九日(月)

田島通治

河田烈 会食 6. p.m.

黒木参次

9 1/2 - 11. 0 荒木(貞夫)大臣ニ会談ス

六月二十日(火)

11. 0 アルゼンチナ丸、芝浦岸壁

2. 0 評議会

5 1/2 p.m. 有終会 ツカサ

六月二十一日(水)

2. p.m. 学研、総務部会

1. p.m. 経済学部教授会

10 - 12 小泉(信三)塾長

岩松秘書課長来訪

林興亜院課長来訪、上海自然科学研究所ノ件

六月二十二日(木)

洋々会、1 1/2

4

5. p.m. 加藤(隆義) 大将祝賀会

関口(鯉吉) 天文台長ヲ招ク(昨夕次官ヨリ来示ノ件)

六月二十三日(金)

造船協会理事会、5、理事会、5 1/2、評議員会

六月二十四日(土)

1. p.m. 上海自然科学研究所(林、片山、慶松、加藤、柴田)

5 | 6、官邸文相

10 | 11 1/2、関口

六月二十五日(日)

文部省へ予算提出時

六月二十六日(月)

0. 3 学振理事会(文部省第四会議室)

海軍造船会

3. p.m. 予算会議

六月二十七日(火)

浅の侯訪問(地所内諾セラル)

六月二十八日(水)

3、[工学部附属] 綜合試験所建設委員会

4 1/2、科学協議会

六月二十九日(木)

pocket book 委員会

5 1/2、中央亭

六月三十日(金)

9 | 10 部会

学研 10 | 12 総会

1 | 部会

5 1/2 水交社(有終会)

七月一日(土)

東亜文化協議会総会

1. p.m. 学士会

10 | 12 上海自然科学研究所

七月三日(月)

桑名(演舞場入口前)、6. p.m.  
1. 0 宮川、増田

嶋峯君(桑名)

七月五日(水)

経済学部教授会 1. 00

七月十五日(土)  
有終会、10 1/2

3. p.m. 部長会議

七月六日(木)

9. a.m. 文相官邸総長会議<sup>(2)</sup>

七月十八日(火)

1 1/2 有終会講師会  
秘書課長来訪

御陪食

七月七日(金)

1. 0 学部長会議

七月十九日(水)  
元良、浅井訪問

10. 0 大学案<sup>(3)</sup>

七月二十日(木)

次官、専門局長(9-10)

七月八日(土)

10. a.m. 審査会連合会

鈴木次郎氏葬儀

石原、益田(上海ノ件)

七月十二日(水)

(午后2. 0 経済学部教授会)

七月二十一日(金)

10. a.m. 文部省第一会議室

中村順平(大阪商船 decoration)

野村(吉三郎)学習院長ヨリ高等科物理ノ先生ヲ求ム

七月十三日(木)

七月二十四日(月)  
4 1/2 p.m. 海防義会

七月二十九日(土)

文相臨海実験所へ

上野ヨリ出発 7.00 p.m. (園部、三浦、水野、亀山)

七月三十日(日)

8.00 p.m. 札幌着

山形屋へ投宿

八月二日(水)

夜江口(重国)帰京

八月十二日(土)

10.20 上野着帰京

午后文化協議会

2.0-4.0 理事会

4.0-5.1/2 旅行会

dinner

八月十三日(日)

小山武氏来(学徒隊ノ件)<sup>(23)</sup>

八月十九日(土)

私邸ニ大臣訪問(8.1/2-10.3/4)、学徒隊ノ件

夜ヨリ発熱臥床ス

八月二十日(日)

臥床

八月二十三日(水)

江口氏来

八月二十四日(木)

江口氏来

岩松秘書課長来

北京行中止決定

八月二十五日(金)

荒木大将ヨリ見舞、果物(令息持参)

八月二十八日(月)

福原氏来訪

矢部、土屋(喬雄)、橋爪、油本四教授発令

阿部(信行)大将へ組閣大命下ル

寺沢氏来訪

清水氏来訪

八月二十九日(火)

江口氏来訪

八月三十日(水)

前田氏、江口、関口局長来訪

亀山、上野、舞出来訪

白石夫人来

河原田(稼吉)氏文相ニ就任

十月五日(木)

午后登学ス

十月六日(金)

大学ヲ認識スルコト

十月十五日(日)

移転ス(目黒区田園調布)

十月十九日(木)

1 1/2 有終会講師会

4 p.m. 懷徳館

十月二十三日(月)

造船協会

十月二十四日(火)

山下氏来訪

防空始ル

評議会

大学制度委員会総会

十月二十五日(水)

欠、11 a.m. 有終会評議員会

教(育)審(議会)

造船懇話会ヨリ造船 pocket book へ三万円寄附ノ件決定セル由(二

十六日吉園氏ノ電話)

十月二十八日(土)

28-30 防空演習

十月三十日(月)

洋々会、3 1/2 p.m.

十一月三日(金)

明治節宮中参賀、9-4 時

十一月四日(土)

ヒルハウス会(5 $\frac{1}{2}$ 、バンスイケン)

十一月十二日(日)  
造船協会

十一月六日(月)

夕、工業クラブ(工業会) 6.p.m. 眞の氏祝賀会

十一月十三日(月)

[帝国] 学士院 [例会]

十一月七日(火)

ウサミ七日会

十一月十五日(水)

河北教育行政長官訪日団(評議院ホウソノ号、外一人)、BOB 大  
学招待

十一月八日(水)

6.p. 夜東亜文化協議会(星ヶ岡)

6.p.m. 紅葉館(東亜文化)

10.a.m. 大臣官邸教学局参与会

十一月二十日(月)

5.p.m. 造船協会

十一月九日(木)

5 $\frac{1}{2}$ p.m. 中央亭

那ス、舞出、上野、田中芳、片山

造船 pocket book

十一月二十二日(水)

4 $\frac{1}{2}$ p.m. 学振(第六九回理事会)、カザン会館

十一月十日(金)

4 $\frac{1}{2}$  大臣官邸

大臣招待

十一月十一日(土)

造船協会見学

十一月二十三日(木)

丁友会、6.p.m. 木挽町小松

正午学士会(総長)

十一月二十五日(土)

学研、2. p.m.

洋々会、4. p.m.

十一月二十八日(火)

桑名

十二月四日(月)

東亜文化協議会、4. p.m. 学士会

110 委員会

十二月五日(火)

軍教査閲

夜

十二月六日(水)

5 1/2 学士会、宮島副田婚儀

十二月八日(金)

造船協会委員会慰労会、6. p.m. 陶々亭

十二月十三日(水)

正午帝国ホテル(文相招待)

十二月十四日(木)

工学部忘年会 5. p.m. (学士会)

(花蝶)

十二月十六日(土)

110 経済教授会

十二月十八日(月)

寅年会、5 1/2 p.m. 紅葉館

十二月十九日(火)

横山、石沢

十二月二十日(水)

総長招待会(学士会)、5 1/2 p.m.

十二月二十一日(木)

学振(第七〇回)理事会 5. p.m. 法曹会館

2. p.m. 学委員会

十二月二十二日(金)

6. p.m. 大臣ヨリ招待(官邸)

十二月二十三日(土)

5. p.m. 築地、錦水、一高東寮会

注

(1) この日平賀は元総長長与又郎を訪問している。「朝、平賀新総長来邸、約一時間に亘り種々の懸案、計画等に就て詳細に内情を語る」(長与又郎日記、一月二二日の条)

(2) この日の長与日記は以下の通り。「十一時半退官後始めて大学に行く、総長決定せるを以てなり。先づ総長室に平賀氏を訪ひ、挨拶を為し、木村(甲一、会計)、竹内(良三郎、学生)、江口(重國、庶務)三課長と暫く語る、木村氏より昨年度予算が大体に於て目下の時局下に於いて好調に進行しつゝあることを聞きて安心す、検見川の事務所及宿舍の一部も通過せる由、山上御殿にて平賀、小野塚(喜平次)両氏と席を併べて会食す」(一月二二日の条)

(3) 正式名称はないが、『東京大学百年史 通史二』(以下、百年史)については『通史二』というように略記)では「審査委員会」と呼んでいる(八九四頁)。構成は法経両学部の学部長、評議員六名。この点につき『聞き書 南原繁回顧録』(丸山真男・福田歓一編、一九八九年九月、東大出版会)で南原は、「本部で勝手につくった。総長とそのブレインがつくったのです。(略)委員会設置が独断的だという批判は免れることはけっしてできない」と述べている。(二〇二頁)

(4) 昭和十三年八月設置の科学振興調査会第三回特別委員会。調査会は企画院による科学審議会設置に対抗して設けられた。荒木文相の科学振興方策の一つである。その所属及び目的は「文部大臣ノ監督ニ属シ其ノ諮問ニ応ジテ科学ノ振興ニ関スル重要事項ヲ調査審議スノ科学振興調査会ハ前項ノ事項ニ付文部大臣ニ建議スルコトヲ得」(同官制第一

条)。昭和十四年三月答申第一「人材養成ノ問題及研究機関ノ整備拡充並ニ連絡統一ノ問題ニ関スル件」を行った。

(5) 文相と国内六帝国大学総長の懇談会。前年の荒木大学改革問題以降はじめての懇談会(『帝国大学新聞』昭和十四年一月一六日付)。その通知文及び趣旨については『平賀謙史料目録』史料復刻中、番号六一一、同六一二を参照。なお、文相と帝大総長との会議、懇談会は管見の限りでは前年から始まり、以降年二回程度開催されている。帝大総長のみの会議(現在の国立大学協会の前身)は大正一〇年よりその開催が確認され、後に右のような文相を交えた会議、懇談会となっていた。

(6) 昭和七年二月設置の日本学術振興会。既設研究機関の連絡を図り、重複を避け、研究方法の刷新により研究の能率を高めること、研究を「国家重要問題」に向けて統制し、前近代的な割拠主義を打破して能率をあげることが目標として明確に意図されていた。(広重徹『科学の社会史』、昭和四八年一月、中央公論社、一二四頁参照)

(7) 一月三〇日の長与日記。前日、山田文雄及び「革新派」がそれぞれ声明書を発表し、辞表を提出していた。「平賀総長が決心を固めるまでには充分配慮を重ね各学部主腦者とも諒解の上でやつたことに相違ないから相当の波の起るのは覚悟の前であらう。只本位田、田辺以外に彼等と進退を共にする教授助教助手の比較的多かつたことは或は意外であらう。併し五十歩百歩である。最後は曾て余の考へて為た法経合併にまで行つても所信を透徹する積であらう。」

(8) 大正九年(一九二〇)八月に設置された学術研究会議。第一次世界大戦後の一九一九年に設立された国際学術研究会議に対応して設けられ、文部大臣の監督下、科学及びその応用に関して内外の研究連絡をはかり研究を促進奨励することを目的としていた。戦後、日本学術会議が発足するまで、科学行政において中心的な役割を担っていた。



(9) 現本郷キャンパスの北北東、文京区弥生二丁目を隔てた浅野キャンパス(旧浅野邸)購入の件。六月二十七日内諾を得、実際の購入は昭和一六年一、四月の二回に亙り約七千坪である。(『東京大学一覽』(昭和四四年一同四五年)中、沿革略による)

(10) 昭和一三年八月三〇日「中日学界並文化団体ノ協力ニ依リ中日両國ノ文化提携並東亜文教ノ振興ヲ図ルコト」を目的に設置された。事業としては「教育、学芸其ノ他文教ニ關スル重要事項ノ調査、立案及審議」を行い、併せて「文教ニ關スル重要事項ニ付中日両國政府ニ建議」することができた。(興亜院華北連絡部編『北支に於ける文教の現状』昭和一六年七月および小林澄兄「東亜文化協議会と北支の教育状況」『教育』昭和一四年一月号など参照)

(11) 昭和一四年五月、全国の帝国大学七校及び医科大学六校のすべてに置かれることになる臨時附属医学専門部の件。設置の理由は戦時下の医師不足の対策として「医師ノ増員養成計画ヲ樹立スルハ刻下国防上、国民医療上焦眉ノ急務」であるとされた。(『通史二』六九六頁)

(12) 東京帝大に昭和一二年六月、教育審議会に対応して設置された大学制度審査委員会。昭和一四年六月以降、すなわち平賀総長時代に「臨時」の二文字が挿入され、大学制度臨時審査委員会と称した。戦時下の学制改革問題に対して、東京帝大としての対応を明確にし、併せて学内の改革課題を審議した、戦前期最後の大規模委員会であった。(『通史二』六一四〜六三六頁参照)

(13) この日の会談内容でないかもしれないが、前掲『南原繁回顧録』(二〇六頁)には、南原が平賀を訪問し、辞職を進めたという記事がある。なお、前月三月二日付の高木八尺宛書簡で南原は、「平賀肅学」にかわり「事後の了解」を求められることがあったら、「両者の側から公平に事態の経過」を聞いた上で態度を決め、それまでは「慎重の態度」

をとることを切望する旨を述べていた。(福田歓一編『南原繁書簡集』一九八七年一月、岩波書店、四九頁)

(14) 矢部貞治の教授昇進の件と推測される。矢部の教授昇進決定は前年九月にすでに教授会で行われていたが、この時でも文部省で押さえられていた。この日の前日蠟山政道の退官、野田良之の助教昇進の発令があり、それに関連しての矢部の処遇問題であったと思われる。八月に矢部は教授となる。(『矢部貞治日記』昭和一四年四月一四日、八月二八日、八月二九日の条に關係記事あり)

(15) 昭和一六年一月、東京帝大におけるはじめての人文科学、社会科学関係の附置研究所、東洋文化研究所の件。前記一月の文相と総長懇談会によって設置が話し合われ、学内に委員会が設置され、組織と研究題目の検討を行っていた。しかし、肅学問題をはじめ諸問題を抱えて多事多難のため、計画は進捗せず、一六年に至りようやく実現する。(『部局史四』第一四編東洋文化研究所参照)

(16) この日から荒木文相の管下学事視察の最初として、東京帝大の視察が始まる。(『帝国大学新聞』昭和一四年五月一五日付、五月二二日付参照) この件につき視察後荒木は次のような札状を平賀に送っている(ただし書中日付は五月九日)。「陳ハ過般大学視察之折ハ何カと御辛勞相かけ候事と存候短時間宛なから刻下学台全貌を承知する事を得今後の大学振興諸施設案出之上ニ多大之自信を得候事無此上仕合と存候昨今学内外又ハ生徒父兄等を通して何れも安心致居候様子又諸事振興之曙光も相見ヘ教授始め学生諸子も奮斗致居候事一二閣下至誠真摯なる御指導ニよる徳化之賜と深く感謝致居候又先般御親臨當時之大学々生之成績一段と優秀なりし事ハ一般之認むる所ニて御同慶至極ニ存候尚又当日優渥なる勅語を拜受し青少年学徒之光榮是に不過之事と存候何卒此感謝新なる折ニ於て自発的且具體的ニ何等力の形ニ於て聖旨ニ答

- へ奉り得る様ニ御指導有之度当局ニ於ても刻下工夫中ニ御座候気節廉恥思索識見就中時局并ニ史実ニ鑑み中正其分を守り修文練武質実剛健之氣風を涵養するニは何より始むへき乎此辺篤と御賢慮煩し度何れ其内拝晤親しく可申上候も不取敢御礼旁寸簡如此ニ御座候」(平賀史料)
- (17) 全国高等学校校長会議(五月二三日、二六日)期間中の二五日に開かれた、恒例の東大総長主催の高等学校長招待晩餐会。於、山上御殿。後任の内田祥三総長時代にも開催されていた。
- (18) 東京帝大船舶学科教室、造船協会、海事協会などの主催の祝賀会。於、学士会。(『帝国大学新聞』昭和一四年六月二二日付)
- (19) 教育審議会整理委員会―中等教育案(高校)―審議が行われる。平賀は同中等教育案委員ではなかったが、今井に同道した。今井は参考人として大学と高校との連絡問題につき意見を述べた。
- (20) 正式には煤煙防止委員会。昭和六年、社会一般の煤煙防止の声に呼応して、学内暖房措置の煙突から出る煤煙の衛生的改善のために設けられた。この日、所期の目的を達したとして解散した。(『帝国大学新聞』昭和一四年六月二六日付)
- (21) 帝国大学総長会議。大学側の出席は六帝国大学のほか、新設の名古屋帝大、総督府管轄の京城帝大と台北帝大との九帝大。懇談の要点は、時局関係の研究促進、文化総合研究機関の設置要求について、学生の気風刷新など。この日当時に天皇との昼食会(「御陪食」)が設定されており、天皇から直々各帝大の現状などにつき質問(「御下問」)があった。新聞解説によれば、「御陪食」は昭和九年以来のことであり、「御下問」は始めてのことであった。(『帝国大学新聞』昭和一四年七月一〇日付)
- (22) 五月の勅語奉載を契機に文部省が立案。六月二四日には第一回打ち合わせを行う。文部省官僚で構成。のちの学校報国隊につらなるもの。八月八日の矢部貞治日記(銀杏の巻、二四〇頁)には、最近の文部官僚の頭を示す笑い事として、「学徒隊なるものを作り、全国の学生生徒にレジュメメンテーションを行ひ、総長や校長が隊長でやる由。それが知行合一だと言ふ。学部長が師団長で教授が中隊長か。日本青年団と衝突して危機を孕んでゐる」と記していた。
- (23) 総長と東大記者会との懇談会。大学側の出席者は総長、穂積重遠法學部長、石原忍医学部長、今井登志喜文學部長、学生・庶務の両課長、記者団側は同盟、東京朝日、東京日日、読売、報知、都の各新聞記者。(『帝国大学新聞』昭和一四年一〇月二三日付)
- (24) 昭和一四年度の第三次防空訓練(二四日から三〇日までの一週間)。陸海軍の防空訓練に即応した国民防空の実戦的な総合訓練であった。訓練の重点は一、精神訓練、二、実践訓練、三、長期にわたる燈火管制にあった。(『東京朝日新聞』昭和一四年一〇月二四日付)
- (25) 教務局参与は、同局設置と同時に官制上に規程され(第四条)、「局務ニ参与」する、とされた。文部大臣の奏請により、「関係各庁勅任官又ハ学識経験アル者」から選ばれた。平賀は昭和一四年二月四日に任命された。昭和一四年(七月一日現在)の「職員録」をみると、一八名の参与を数えることができる。東京帝大から和辻哲郎と兼任の橋田邦彦の名前がある。
- (26) 文相と九帝大総長との懇談会。当日河原田文相は学生の「感恩の精神」を鼓吹し、礼儀作法の涵養につき希望を述べた。これに対し総長側はその具体的な方法として演習制の強化、指導教官制の採用、教授と学生との人格的接触の振興などにより目的を達することに意見の一致をみた。(『東京朝日新聞』昭和一四年一二月一一日付。なお『帝国大学新聞』同年一二月二三日付も参照)

(なかの) みるる 元東京大学史料室室員、現立教大学史資料室)